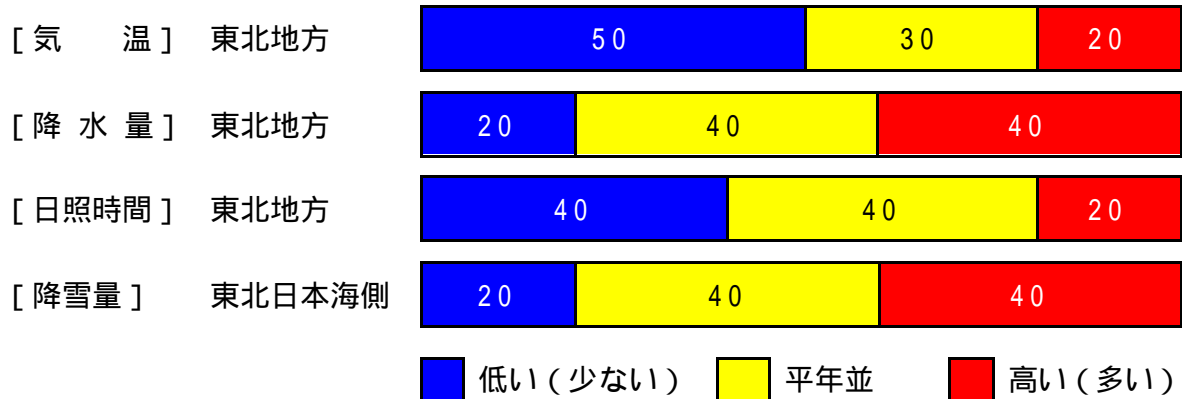


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：1 月 13 日～2 月 12 日）

平成 13 年 1 月 12 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「低い」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30％です。「高い」の可能性は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の可能性は 20％と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「多い」の可能性は 20％と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の可能性は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

期間の前半は冬型の気圧配置が続き、時々強い寒気が入るでしょう。期間の後半は冬型の気圧配置も長続きせず、天気は周期的に変わり易いでしょう。東北地方は平年に比べ晴れの日が少なく、曇りや雪または雨の日が多い見込みです。

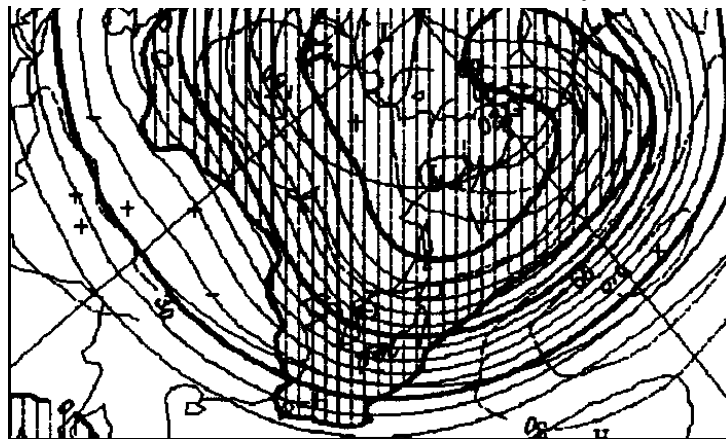
平均気温は低いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約5日、東北太平洋側約19日

各予報期間の天候の特徴

- 1週目…………… 冬型の気圧配置の日が続き、東北日本海側では雪が降るでしょう。期間の中頃までは、強い寒気が入って荒れた天気となり、降雪量が多くなる所がある見込みです。東北太平洋側でも雪の降る所があるでしょう。
平均気温は低い見込みです。
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日
- (1月13日～1月19日)
- 2週目…………… 冬型の気圧配置が続き、強い寒気の入る日があるでしょう。平年に比べ東北地方は曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
平均気温は低い見込みです。
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日
- (1月20日～1月26日)
- 3～4週目…………… 冬型の気圧配置は長続きせず、天気は周期的に変わり易いでしょう。平年に比べ、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では晴れの日が少ないでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数：東北日本海側約3日、東北太平洋側約10日
- (1月27日～2月9日)

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



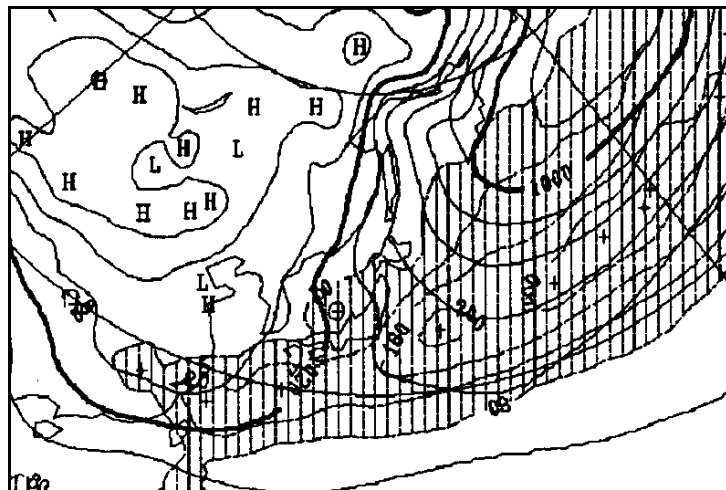
月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は極からの負偏差域に広く覆われ、谷場となっている。このため、寒気の影響を受けやすい。

また、日本付近の偏西風は東西流が比較的卓越しており、天気は周期変化が基調となる見込み。

週別（図略）では、1～2 週目は日本付近が強い負偏差に覆われ、強い寒気の影響を受け易いが、3～4 週目は日本付近が正偏差域となり、寒気が南下しにくい。

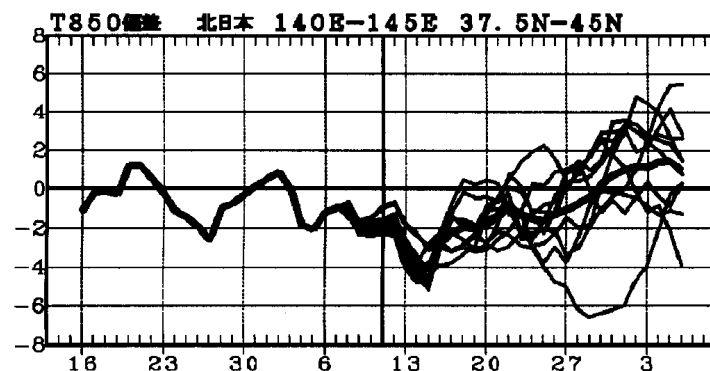


月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸に高気圧があり、西日本に張り出す。一方、ベーリング海では低気圧が発達して、日本付近は冬型の気圧配置となっている。まとまった降水域は日本の南から東海上だが、日本付近は広く降水域に覆われる。

週別（図略）では、1～2 週目に冬型の気圧配置となるが、3～4 週目は冬型の気圧配置も弱まる。また、2 週目以降は日本の南から東海上に降水域が予想され、南岸を通過する低気圧の影響を受け易くなる。



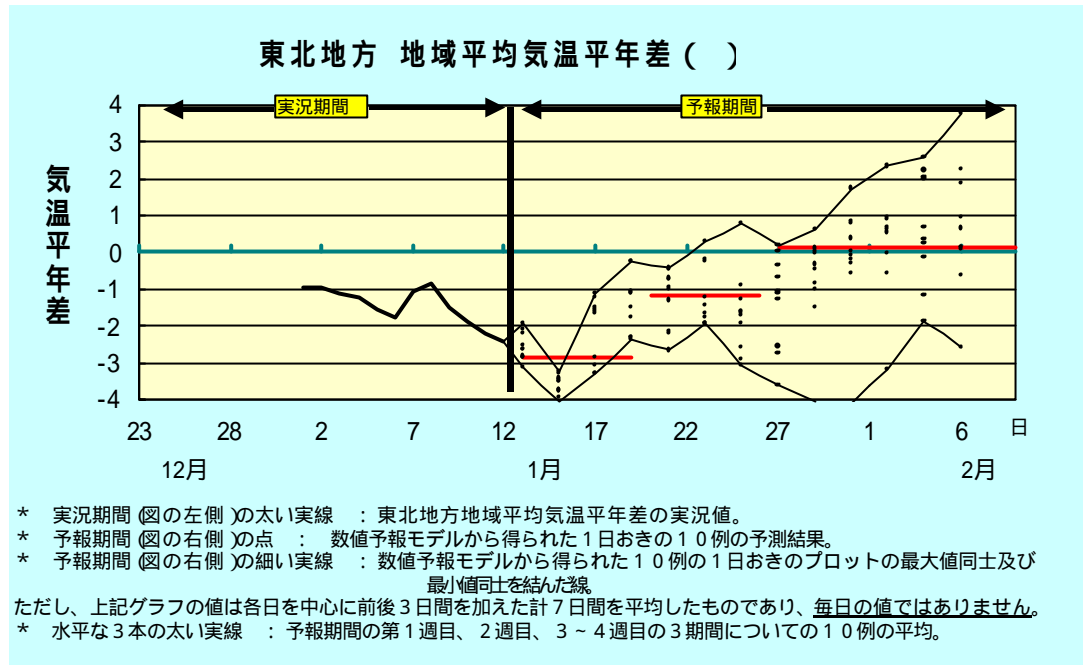
北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想
(縦軸：気温平年差() 横軸：日付)
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1～2 週目にかけて平年より低いですが、次第に上がって3～4 週目はほぼ平年並となる。全体的にばらつきは小さいが、3 週目に低温を予想するメンバーもある。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

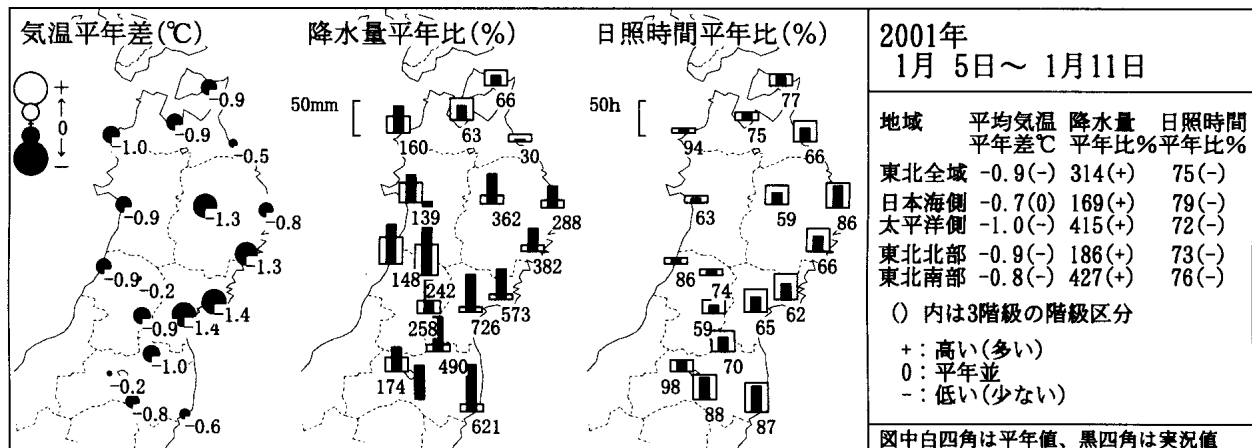
週別の気温は、1 週目「低い」、2 週目「低い」、3～4 週目「平年並」を予測している。なお、1 週目は週間予報資料からも「低い」とする。アンサンブルメンバーのばらつきは3～4 週目に大きくなるが、信頼度は大きいと考える。



4. 最近1週間(1月5日～1月11日)の天候の経過

この期間、5～6日は強い冬型の気圧配置となって東北南部は大荒れの天気となった。また、8日は日本の南岸を低気圧が発達しながら通過したため、再び東北南部では大雪となった。このため、交通障害や農作物等に被害が発生した。その後は、天気は短い周期で変化し、東北地方は曇りや雨または雪となる日が多かった。

平均気温は、東北日本海側で平年差-0.7 と平年並だったが、東北太平洋側で平年差-1.0 と低かった。降水量は、東北地方で平年比314%と多く、特に東北南部では平年比400%を超えた。日照時間は、東北地方で平年比75%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)